



涼しき嵩 radokoro saraku 田所節子句集

田所節子さんとは、昭和五十年以来の長いお付き合いである。小径会を経て「沖」に入会し、やがて沖同人に列し、平成三年には第一句集「花標」を出版された。第二句集となる本書には家族への愛情をしっかりと詠みとめた句が多い。

林 翔

洩
る
る
灯
に
鏡
な
ま
め
く
春
の
闇

父
よ
黄
泉
は
こ
の
稔
田
の
明
る
さ
か

冬ざくら
懐へ
懐へ
し
光
かな

嬰は
夢に
大空
掴み
辛夷
の芽

師を恋へば天に日を透く朴若葉

試歩の身は風の花合歡より揺るる

かげろふより走り来し児を抱きとむる

春着の児所作に小鈴の音が添ひ

ふたりきりの涼しき嵩を濯ぎけり

秋嶺行く光る白点あれが吾子

寒垢離のみるみる赤みさす命

朝寝して妙に家族の気が合へり

子の進路いまだ辛夷の萼鎧ひ

昆布つけて水の糸引く夕おぼろ

竹皮を脱ぎますますの生一本

謀反めくひとひら牡丹開き初む

寝
積
み
の
父
九
十
の
長
眉
毛

鳩
や
椋^む
鳥^く
庭
に
来
て
ゐ
る
涅槃
の
日

涅槃の嘆きの裏は繕はれ

太陽の色を束ぬる金盞花

朴の葉に盛る朧夜の古代食

花鳥賊のびくりと縮む命かな

初
刷
り
や
金
屏
牡
丹
を
一
面
に

緋
の
色
の
他
は
薄
れ
て
涅
槃
絵
図

片
栗
の
風
恠
へ
ゐ
る
薄
茜

わ
が
死
後
は
反
故
と
な
ら
む
書
鳥
ぐ
も
り

薇採る山の湿りへ手を入れて

義父、逝去

天寿とは眠るごとと逝き花木槿

子の家族来てより淑気四散せり

酔の利きしものへ箸ゆく四日かな

恋生まれ凍鶴凍てを解きにけり

能村登四郎先生「曼珠沙華」句碑開眼式

句碑生るる「延壽」の名よき芽吹寺

野
蒜
摘
み
鈴
振
る
や
う
に
土
落
と
す

正
月
が
来
る
を
さ
な
ご
を
連
れ
て
来
る

空深く咲いて青帯ぶ花辛夷

芹を摘むさらさらと日の流れゐて

草の芽や鵲鴿お辞儀歩きして

かげろふより走り来し児を抱きとむる

陽をはじき花菜畑の盛り上がる

我を呼ぶ幼の声も淑気満つ

海鳥の命耀ふ初景色

雪眼鏡はづし大気の青かりし

雪原の足跡のみが頼りなり

敷藁に柾目の日差し寒牡丹

一寸に意志ありありと牡丹の芽

少しまろび少し待ちゐる風落葉

絶壁に海の泡立つ水仙花

冬うららが鳶が峽空均しをり

句集 涼しき嵩

二〇〇五年九月一〇日 初版発行

著 者——田所節子

発行人——山岡喜美子

発行所——ふらんす堂

PDF——俳誌のsalon